

## 非難されるべきは北ではなくて米国 — 非核連合設立に向けて —

米朝会談が取りざたされている。短期的な戦争が回避できるかもしれないが、「地球上から核を廃絶する」という本質的な課題解決には何らつながらないどころか、逆行にもなりかねない。今、変えねばならないのは「核を持てば、世界に向けて存在感、発言力を増す」という世界の風潮を払しょくすることである。この風潮を助長している犯人は、米国をはじめとする、ロシア、中国などの大国である。

自分のところは核を強化しておきながら、力で他国を押しえつけよう、なんて虫の良い話を通るわけがない。北に核を放棄させるには、「核をもつても、使えない、意味がない、国威掲揚にはつながらない。それどころか世界中から、白い目で見られ、低俗野蛮国とのレッテルが張られる」という世界世論を形成することである。

当然核の力の信奉者は、聞く耳を持たないので、時間をかけてコンセンサスを広げていかねばならない。日本は、まずそのアクションを優先するべきである。国連の中に非核組織を作るのが理想であるが、いまのままでは不可能であるので、まずは別の国際組織を作るべきであろう。日本が表面上のリーダーになる必要はない。外交ルートを総動員して、賛同国を増やしていく。日韓のような米国寄り、中国寄り、ロシア寄りの非核国を集める。名目上のリーダーは中立国が望ましい。大国からも無視できないほどの規模になった段階で、核保有国と渡り合う。10年はかかるであろう。

いずれ行われる6か国協議を、広島で開催することを提案する。実現する可能性はゼロであるが、そうした宣言を世界に向けて発信することに意味がある。

以上